

# 日仏文学対談

「ノスタルジックな〈私たち〉、  
来るべき〈私たち〉」

参加費  
無料  
申し込み  
不要



2026年4月22日 @ 富山大学

## トリストアン・ガルシア (Tristan Garcia)

1981年、フランス生まれの哲学者、小説家。  
高等師範学校およびソルボンヌ大学で哲学を学び、ピカルディ大学で博士号を取得。現在、パリ国立高等美術学校教授。日本語訳に『激しい生—近代の強迫観念』（栗脇永翔訳、人文書院、2021年）、『7』（高橋啓訳、河出書房新社、2025年）、『〈私たち〉とは何か——人称複数の哲学』（関大聡、伊藤琢麻、福島亮訳、法政大学出版局、2025年）がある。

「戦争」という言葉が日増しに身近なものとなる状況下でそれでも「私たち」について考えていくことはどのように可能なのでしょうか？

『〈私たち〉とは何か』の著者であるトリストアン・ガルシア氏と翻訳者の対談を通して考えます。

逐次通訳がありますので、どなたもご自由にご参加ください。

対談者：福島 亮（富山大学学術研究部人文科学系）



2026年4月22日（水）  
13:30 - 15:00  
(13:00 開場)



会場 富山大学人文学部大会議室  
住所 富山市五福3190番地

## プログラム

- 13:00 開場
- 13:30 トリストアン・ガルシア氏のご紹介（10分）
- 13:40 対談（60分）
- 14:40 質疑応答（20分）

逐次通訳あり  
(日本語・フランス語)  
申し込み不要

主催：富山大学人文学部福島亮研究室  
後援：在日フランス大使館文化部/  
アンスティチュ・フランセ

お問合せ：福島亮研究室  
ryofkshm@hmt.u-toyama.ac.jp